

近年の大雪による北陸地方の被害

前田博司（福井工業大学）

はじめに 2006 年、2011 年および 2012 年の各寒候期は、全国的に大雪で、人的被害や建物被害等が多く発生した。本報では、この大雪による北陸地方の被害の特徴について、若干の考察を加えて、報告する。

気温と積雪状況 表 1 に福井・金沢・富山

における各寒候期の 12～2 月の平均気温と最大積雪深を示す。いずれの地点においても平均気温は平年以下であり、特に 2006 年はかなり低い気温であったことがわかる。一方、富山では 2011 年は平年並みであった。最大積雪深に関しては、福井と金沢では 2011 年が最も多かったが、富山では 2012 年が最も多かった。しかし、それでもこれまでの最大記録の 1/2 程度あるいはそれ以下であり、特に金沢は少なかった。

表 1 各寒候期の気温と最大積雪深

地点	12～2 月の平均気温（℃）				最大積雪深（cm）			
	2006	2011	2012	平年	2006	2011	2012	最大
福井	2.5	3.6	3.1	4.1	95	119	61	213
金沢	3.3	4.3	3.6	4.8	55	64	45	181
富山	2.3	3.7	2.6	3.7	79	77	95	208

被害状況 表 2 に寒候期ごとの被害状況を示す。人的被害は、2008 年の福井県が最も

表 2 被害状況

県	死者（人）				住家全半壊（棟）			
	2006	2011	2012	計	2006	2011	2012	計
福井	14	7	4	25	3	4	0	7
石川	6	5	1	12	1	0	0	1
富山	4	8	2	14	2	5	1	8

多く、2011 年の富山県がこれに続き、3 寒候期の合計でも福井県が最も多い。住家の全半壊は、2011 年の富山県が最も多く、2011 年の福井県がこれに続き、3 寒候期の合計では富山県が最も多い。また、石川県の被害は 2006 年の 1 棟だけである。

考察 死者数および住家全半壊棟数の最大積雪深との関係をそれぞれ図 1 および図 2 に示す。図より明らかのように、いずれも全体的には最大積雪深が大きいほど被害が大きい傾向が見られるが、富山県はやや異なる。これについては、2011 年は、富山では 3 寒候期の中で最大積雪深は最も小さいが、平均気温が平年並みの比較的高温であったため、積雪荷重の値が大きかったのではないかと推定される。石川県では住家の全半壊が少ないが、これは最大積雪深が平年（44cm）を若干上回る程度であったためであると考えられる。

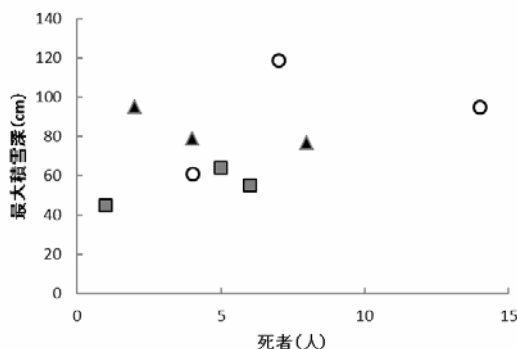


図 1 死者数と最大積雪深

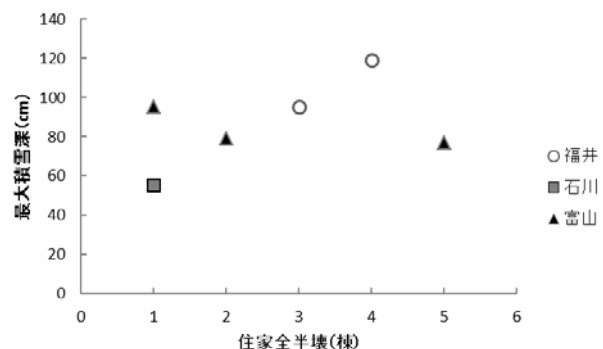


図 2 住家全半壊棟数と最大積雪深

むすび

各寒候期の北陸地方における被害は、最大積雪深が大きいほど大きいですが、富山県に関しては傾向がやや異なることが明らかとなった。これは、富山県では 2011 年が大雪の割には気温が高かったためと考えられる。

《参考文献》

- 1) 気象庁 HP・過去の気象データ検索：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>
- 2) 総務省消防庁 HP・災害情報：<http://www.fdma.go.jp/bn/2012/detail/739.html>